

知ってる？

三豊の近代化遺産

近代化遺産とは、幕末から第2次世界大戦期までの間に建設され、日本の近代化に貢献した産業・交通・土木に係る建造物のことです。中には、今も現役で使用されているものもあれば、別の用途で活用されているものも。私たちの生活に身近な存在である近代化遺産の一部を紹介します。

栗島海洋記念館(詫間町)



栗島海洋記念館は、平成11(1999)年に国の登録有形文化財に登録。明治30(1897)年に開校した日本最古の海員養成学校跡地を利用した栗島海洋記念公園の中に建てられており、大正9(1920)年に建てられた旧校舎をそのまま利用しています。

海運の歴史などに関する資料が展示されており、庭には当時の練習船、船具なども展示されています。

映画「機関車先生」のロケ地にも選ばれており、当時と変わらない内装の姿にはノスタルジックが感じられます。

📍詫間町栗島 1541

下高瀬簡易郵便局(旧丸岡呉服店)(三野町)



現在は、三野町下高瀬簡易郵便局となっていますが、元々は丸岡呉服店(屋号ヤマヤ)の店舗として昭和10(1935)年に建てられました。

内部の中央には吹き抜けのギャラリーが設けられており、緩やかな階段に付けられた手すりや吹き抜けの壁の彫刻、さらに「応接室」と書かれた文字にも経年の味わいが感じられます。

昭和初期には極めて珍しい洋風建築で、京都にあった近代建築を模して造ったと伝えられており、平成11(1999)年に国の登録有形文化財に登録されています。

📍三野町下高瀬 533-2

鳥取家住宅(豊中町)



風呂場棟には、昔ながらの五右衛門風呂がきれいな状態で残っています。

NEW

鳥取家住宅は、10月14日に新たに国の登録有形文化財に登録された建物です。

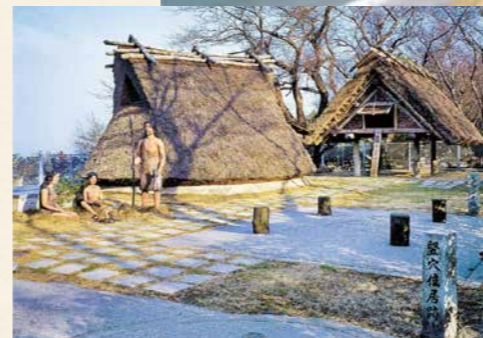
鳥取家は代々笠田村の村長を輩出した旧家で、今回登録されたのは、明治8(1875)年に鳥取本家から分家した鳥取柔三郎氏の屋敷です。敷地内には明治前期から昭和前期にかけて建てられた建造物や門、石堀などが現存しています。

📍豊中町笠田笠岡 1764-1

紫雲出山遺跡(詫間町)



▲大浜漁港から見る紫雲出山



▲復元された住居

桜やアジサイが咲き誇ることで有名な紫雲出山ですが、実は山全体が遺跡でもあります。

紫雲出山遺跡は、荘内半島にそびえる紫雲出山の山頂付近に広がる集落遺跡です。昭和59(1984)年に県指定史跡になり、令和元(2019)年には他地域の土器や石器の存在、遺跡の立地条件などから、瀬戸内海の広域交流において重要な役割を担った集落であったと評価され、国指定史跡になりました。

Q 何が発見されたの？

A 300点を超える石鏃をはじめとする多くの石器や、多種多様な土器が発見されました。

Q いつ頃の遺跡なの？

A 出土した遺物から、弥生時代中期後半頃(約2,000~2,100年前)の遺跡と考えられています。

Q どのような遺跡なの？

A 紫雲出山遺跡は、高地性集落であり、石鏃が大量に出土したことや見晴らしが良いことなどから軍事的な遺跡であったという考えや、さまざまな地域から搬入された遺物が出土することから交易における一拠点のような役割を果たしていたという意見など、多くの見解が出されています。

山頂からの絶景が人気の紫雲出山。実は弥生時代もこの山をめざしていろいろな地域の人が来ていました。
2,000年前と同じ景色が広がる紫雲出山から、当時の様子に思いを馳せてみませんか？



三豊市生涯学習課 塩治 琢磨さん

山頂の見どころ

紫雲出山の標高は、荘内半島の中で最も高い352メートル。山頂展望台からの眺めは抜群で、天気の良い日には、南は四国山地、北は瀬戸内海に浮かぶ島々を見渡すことができます。

また、遺跡館には約2,000年前の土器や石器を展示しています。

◀山頂から見える景色。春には約1,000本の桜、初夏にはアジサイが咲き、山を彩ります



今に伝わる文化財

三豊市には、たくさんの文化財が残っています。文化財は、地域の長い歴史の中で生まれ、今日に伝えられてきた市民共有の財産です。今回は、当時の面影を今に伝える文化財を紹介します。

ぐるっと

歴史散歩 ～行ってみよう！三豊の文化財～

▶問い合わせ 生涯学習課 ☎ 73-3135



① 志々島の大くす

志々島の大くすは、島の山の中腹にある樹齢1200年の楠の木です。昭和45（1970）年に県指定の天然記念物に指定されました。四方に伸びた太い幹が神秘的で、島のパワースポットとして注目を浴びています。

☒ 詫間町志々島



三豊の歴史を
見に行こう！



12月～2月に
かけて蠟梅が黄色い
花を咲かせます



⑤ 本山寺



大同2（807）年に弘法大師空海によって建てられたと伝えられる本山寺。四国八十八カ所霊場第70番札所として、多くのお遍路さんが訪れています。

現在の本堂は正安2（1300）年に再建された後、昭和30（1955）年に解体修理が行われ、国宝に指定されました。

また国指定重要文化財の二王門は、和様・唐様・天竺様の手法を取り入れた全国的にも珍しい折衷様式の建築物です。

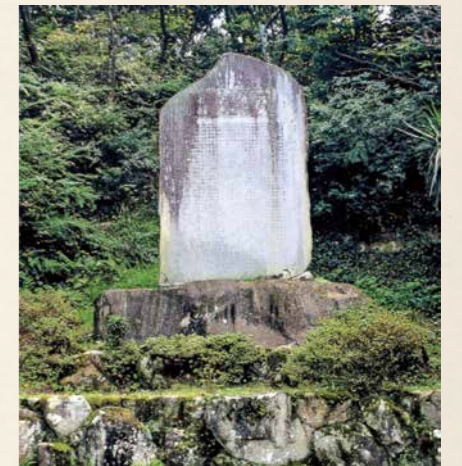
そして、二王門の左右には本山寺伽藍を守護している金剛力士像（阿形・吽形）が安置されています。

☒ 豊中町本山甲 1445

⑥ 大久保護之丞 顕彰碑

大久保護之丞の出生地である財田上戸川に建てられた碑は、高さ4メートル、幅2.5メートルもあり、護之丞の功績が詳しく刻まれています。

☒ 財田町財田上戸川



⑦ 大興寺

一般に「小松尾寺」として親しまれる大興寺は、四国八十八カ所霊場第67番札所として、多くのお遍路さんが訪れています。

大興寺に所蔵されている木扁額は、県の指定有形文化財にもなっています。文永4（1367）年に造られた木扁額の中央には「大興寺」と陽刻され、重厚なつくりです。

☒ 山本町辻 4209



② 弥谷寺

弥谷寺は、弥谷山の南側中腹にある山岳寺院。四国八十八カ所霊場第71番札所であり、地元の皆さんに「いやだにさん」と親しまれています。

弥谷寺の信仰遺跡は昭和43（1968）年に県の文化財に指定されました。

☒ 三野町大見乙 70



紅葉の見頃は
12月上旬～中旬

第10回「わたしの焼き物お宝展」 展示作品募集

受付期間 12月17日（金）まで
午前9時～午後5時（月曜休館）
募集作品 思い出のある焼き物など
応募方法 展示館に直接持ち込み
※1月4日（火）～30日（日）の
展示期間終了後に、直接本人が引き
取りに来てください。

申し込み・問い合わせ
宗吉かわらの里展示館 ☎ 56-2301



③ 覚城院

覚城院は、弘仁10（819）年に弘法大師空海によって七宝山の麓に創建されたと言われていています。本尊の千手観音立像は県の指定文化財に、境内の鐘楼は国の重要文化財に指定されています。

また、天正7（1579）年に長曾我部 元親に攻められて落城した、細川 頼弘の居城だった仁尾城跡とも言われています。

☒ 仁尾町仁尾丁 930

